

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
(以下「ディズニー」という)
第十九回ディズニー・チャンネル/ディズニーXD放送番組審議会
議事録

開催日時 : 2012年11月22日(木) 17:30~18:30
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ
ショナル ジャパン
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7
出席審議委員数 : 7
出席審議委員氏名 : 阿部 京子
加藤 諦三
木下 美子
戸田 奈津子
中川 真弥
前田 耕作
山田 顕喜

その他、ディズニ : 編成部門担当者3名
ーからの出席者

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について
 - 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にDVDを送付した。)
 - ・「怪奇ゾーン グラビティフォールズ」
 - ・「オースティン&アリー」
 - ・「アルティメット・スパイダーマン」

審議の概要

- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD番組編成について
ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について説明が
され、下記のとおり意見交換が行われた。
(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の
回答)

- ディズニー・チャンネルでは、11月18日にミッキーの誕生日のスタントがあった。数年ぶりにクラシックなミッキーの短編を放送できた。
- 10月以降は、未就学児童の視聴率が上がってきている。ナナドラ（平日夜7時の実写ドラマ枠）は、6～12歳の女の子にも好評を得ている。来年の1月には、さらにラインナップをパワーアップさせる予定。
- 今回お見せした『怪奇ゾーン グラビティフォールズ』は、金曜日 17:30の枠をメインに、週末にも持ってきており、順調な視聴率の推移が見られる。『オースティン&アリー』は、週末の枠で放送中。1月からはナナドラの枠にも登場する予定。
- ディズニー・チャンネルとディズニージュニアで放送中の『ドックはおもちゃドクター』は、男の子と女の子と両方からの支持を受けている。『とっとこハム太郎』も平日に放送中。小学校低学年くらいまでをターゲットとしている。
- 『フィニアスとファーブ』は大ヒットとなっている。10月にはキディランドで店頭コーナーを設けたところ、好評のため、グッズの品切れが続出した。現在、店頭コーナーは終了しているが、店内で販売中。ディズニーストアでの展開も大変好評のため、品切れが発生し、年末年始には生産が追いつかない状態。番組と商品の展開が、大成功していると感じる。
- ディズニーXDでは、7月から『アルティメット・スパイダーマン』の放送が開始。今後、ディズニーとしてもマーベルの作品を育てていくためにも、マーベル・ユニバースという枠を設けている。現在は、映画「アメイジング・スパイダーマン」と映画「アベンジャーズ」のDVDリリースも間近というタイミングにある。映画の公開に合わせて、『アルティメット・スパイダーマン』の放送を開始した。
マーベル作品の認知度はまだまだだが、フランチャイズ展開していくので、大切に育てていきたい。
- ディズニーXD全体としては、番組の改編を始め、映画のラインナップの見直し等をはかっている。土曜日と日曜日の編成を完全に分けている。ここ最近、徐々に視聴率が上がり始めており、番組改編の効果が出てきていると思われる。
- また先日、マーベル・ユニバースの認知度アップを図るために、アニマル浜口さん親子を招いて、勝どきの小学校にてマーベル体操を踊り、お話をしてくるイベントを開催した。子供たちにも大変好評だった。

2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について

ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について各委員より意見交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の回答)

『怪奇ゾーン グラビティフォールズ』について：

- ディッパーとメイベルの双子の兄弟は、夏休みの間に、グラビティフォールズという町で「ミステリーハウス」という胡散臭い店を営んでいるスタンおじさんのところに預けられる。この町は様々な怪奇現象が起きる場所で、ディッパーとメイベルの二人が色々な奇妙な出来事に遭遇するという内容のストーリー。
- ディテールが実に細かく描かれていた。昔見た作品のような味のある雰囲気を持っている。
- この作品のクリエイターはまだ20代後半と若く、彼が子供時代に受けたインスピレーションを反映させた作品。 作風は、通常のディズニー作品よりも尖った部分もあるが、子供に受けるハチャメチャな部分と、大人でなければ分からなそうなジョークも入り混じっている。
- 小学生1～2年くらいをターゲットにしているのであろうか？
- 小さい子が見れば怖いと感じるかもしれないが、活劇あり、追っかけありで、是非また次を見たいくなるような展開があり、中学生以上でも楽しめると思う。
- クリエイターの持つ世界観を大切にしているため、制作ペースがゆっくりで放送できるエピソード数がまだ多くはないが、先行放送として『フィニアスとファーブ』の枠で紹介したところ、既に多くの支持を得ている様子。

『オースティン&アリー』について：

- お調子者で抜群の歌唱力を持つオースティンと、アガリ症で天才的なソングライターであるアリーの二人がコンビを組む。
ストーリーの内容は、ネットでミュージックビデオを公開した二人の歌が大人気となり、その二人を取り巻くドタバタ劇を描いたコメディ。
- オースティン役のロス・リンチは、ディズニーの中でも今後育てるべきタレントとして考えている。 来年放送予定のディズニー・チャンネルのオリジナル映画「Teen Beach Movie」にも主演で登場。
- この番組も既にかかなりのヒットしているのか？
- 実写ドラマ作品の人気が出るまでには非常に時間がかかるので、まだこれからというところ。徐々に育てていきたいと考えている。日本ではサウンドトラックCDは来年リリース予定。
- ミュージックビデオの部分は、ドタバタな内容に、インターミッションが

入る感じで良い。

- 大人の目線で見えていて少々違和感を覚えた点もある。 例えば、アリーは恥ずかしがり屋という設定のようだが、本来そういう人物は、実は一方で脚光を浴びたいというある意味矛盾した願望を持つもの。このエピソードを見ると、まだその部分が見られなかったように思えるが？
- 確かに彼女にはそういった矛盾した性格があり、後々のエピソードでは、アリーもオースティンのように注目されるようになりたいという思いが描かれている。 第2シーズンでも登場人物たちの成長が見られる。
- この世代の子供たちは、結構いるキャラクターのようではあるが、ありそうで無い設定。女の子のほうが出たがりではなく、男の子が前に出るというのが面白いと感じた。友情なども描かれており、芯はしっかりしている作品という印象。

『アルティメット・スパイダーマン』について：

- 高校生のピーター・パーカーが、スパイダーマンになって1年が過ぎた頃という設定。 まだヒーローとはどうあるべきかを学んでいる修業中の身で、彼の叔父が残した「大いなる力には、大いなる責任が伴う」という言葉の意味を日々実感しているところ。後にパワーマン、アイアンフィスト、ホワイトタイガー、ノヴァといった仲間たちとチームを組んで協力して悪と戦うことになる。
- このシリーズでは、ピーター・パーカーも今までのシリーズとはまた少々ちがう形で描かれている。他に、マーベルの他のシリーズ（例：アベンジャーズやエクスマンなど）のキャラクターたちもゲストとして登場する。
- スパイダーマンは、作品によって、色々なキャラクターとして描かれているのか？
- 映画やシリーズなど、それぞれ設定や見た目も変わっていたり、コミックやアニメーションでも、時代と設定を若干変化させている。
- スパイダーマンはお調子者で、性格的にもマーベルの他のキャラクターと異なる部分がある。この作品全体として、コメディ色も強くなっている。
- 企画当初はもう少しシリアスな設定だったが、大人は楽しめるかもしれないが、30分シリアスでは子供が飽きてしまうので、もう少し笑いの要素もあったほうが良いのではないかという意見があり、このような形に仕上がった。
- 内容がとても人間的だと思う。 普通の高校生がいて、ヒーローを作っていくという部分に、人間臭さがある。典型的なヒーローアニメ。見ていて、痛快に思う。

- 第2シーズンの制作も決定している。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので18：30に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。